

に自生。古く日本に渡来し、種子を薬用、葉を食用にした。茎は直立し、高さ80cm。葉は円心形で五裂する。春から秋まで葉腋に小さい淡紅色の五弁花をつける。

『漢語大詞典』には「①蔬菜名。我国古代重要蔬菜之一。可腌制、称葵菹」と説明し、『詩経』「幽風・七月」の「七月亨葵及菽」の例を引く。

46○藜(せん) ……こけ。↓補説②

○孤拳…一つのこぶし。

47○物色…風物、景色。

『漢語大詞典』には「形状、形貌」として、『後漢書』「逸民傳」の「帝思其賢、乃令以物色訪之。李賢注、以其形貌求之。」の用例を、また、「景色、景象」の説明の後、鮑照の詩「秋日示休上人」の「物色延暮思、霜露逼朝榮。」の用例をあげている。↓補説③

○仍舊…以前の通りと変わらない、あるいは、元の状態にもどすこと。

『漢語大詞典』には「照前不変或恢復原状」として、『魏書』「咸陽王禧傳」の「年三十以上、習性已久、容或不可卒革、三十以下、見在朝廷之人、語音不聽仍舊」の例を引く。

48○人居…人の住むところ。人家。民居。

○就 ……『漢辭海』で「①ついて」と訓じ、「…によって/…にしたがって《行為が行われる対象や根拠を提示する》」と説明する用法が、ここの例だと解する。

○悛 ……あらためる。

